

加齢研ニュース

平成 29 年 12 月 1 日
東北大学加齢医学研究所
研究会同窓会発行

【所長室便り】

川 島 隆 太

今年有加齢研七十五周年の記念の年なのですが、夏らしい夏もなく天候も不順なら、世界情勢もなにやらきな臭くなってきており、波乱の始まりを予感させられます。私の研究領域の国際学会も、来年 6 月にソウルで行う予定だったのですが、地政学的現状を考慮して、急遽、シンガポールでの開催に変更になりました。平成 15 年の重症急性呼吸器症候群（SARS）による渡航自粛勧告が出て、スタッフや学生の学会出張を見送った時のことを思い出しました。今回はより深刻です。私たちの生活に実際に影響がないことを切に願います。

まずは、知のフォーラムが無事に開催されたことをご報告申し上げます。5 月 10 日から 26 日に行われた 3 つのメインフォーラムでは、総参加者数 404 名、うち外国人研究者が 53 名でした。当初の目的であった加齢研がこれまでも、

そしてこれからも加齢研究を先導する国際的な研究拠点であることを誇示することができたのではないかと自負しています。若手研究者が司会進行、ディスカッションリーダーを務めた招聘研究者と若手研究者の交流・小グループ討議も活況に終わり、若手には良い経験になったのではないかと考えています。

また 5 月 27 日に（株）仙台放送との共催で行った市民公開講座には、904 名もの市民の方々が参加くださり、講演会やパネルディスカッションを楽しんでいただきました。その様子は 6 月 17 日に仙台放送で 1 時間番組として放映されましたので、視聴された同窓会の皆さんもいらっしゃったのではないのでしょうか。

6 月の同窓会総会で報告いたしましたが、研究会同窓会助成金として、約 285 万円を招待講演者との懇談会、参加者の懇親会、運営を手伝ってくれた職員・学生のお弁当代等として使わせていただきました。重ねて御礼を申し上げます。

また、帯刀元所長に無理なお願いをして、ぐい飲みを手作りしていただき、招聘した先生方

加齢研ニュース 第 68 号 目次

所長室便り（川島 隆太）	1
分野紹介（基礎加齢研究分野）	3
随想（中村 晃）	5
研究会便り（林 陽平）	6
所内人事消息	9
研究会同窓会広報（高井 俊行）	10
編集後記	11

にお渡ししました。所内コードネーム「帯刀焼」、皆さん大変喜ばれていました。広報情報室が帯刀先生の信州の「工房」まで出向きインタビューをした映像も懇親会で流しましたが、こちらも大変好評でした。帯刀先生のご協力に改めて御礼申し上げます。

新動物舎、旧 RI 棟を改修した新動物実験施設は無事に完成し、9月に少し遅れていた動物の引っ越しを開始しました。新動物舎は加齢研で唯一、免振の建物になります。最も安全な建物に、私たちの研究を支えてくれている実験動物達が住んでいるのは、加齢研がまさに研究第一主義を具現化しているのであると嘯いています。

駐車場の入場システム、研究所玄関のセキュリティシステムも、大学の身分証明書がIC化されたことを機に、非接触のものに変更しました。研究所運営のためのお金がなくてピーピー言っているのですが、少しずつできることから新しくしています。

是非、集談会の折にでも、足をお運びいただき、加齢研の「今」を見ていただければと思います。

さて、加齢研にとって、波乱の幕開けになりかねない大ニュースです。

東北大学は平成29年6月30日に文部科学大臣より指定国立大学の指定を受けました。指定国立大学とは、世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人とのことで、東京大学、京都大学と本学の3大学がまず指定されました。従来、旧帝国大学、RU11など、さまざまな分類がありましたが、今回、法律の下で定められたことは大きな意味があります。詳しくはhttp://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/1387558.htmを参照してください。

指定国立大学の認定を受けるために文科省に提出した調書には、本学の機能強化に関する種々の公約が種々書かれています。私も委員として、産学連携部分の作文に携わりました。その中で、加齢研の将来と直接関連するものを2つ紹介します。

人材育成に関して、東北大学高等大学院を新設し、学位プログラムを拡充すると宣言しました。従来の縦割りの大学院制度を改め、多くの学生が部局の枠を超えて研究プログラムに参加することを想定しています。加齢研としても、平成30年度に発足予定の卓越大学院制度に、医学系研究科と共同で応募し、この一翼を担いたいと考えています。

研究力強化に関しては、現高等教育機構をより拡充し、同機構を核として分野融合研究を戦略的に推進することになりました。加齢研およびスマート・エイジング学際重点研究センターは、他附置研や研究センターとともに、高等教育機構の「下位階層」に位置付けられ、新設されるアライアンス統括の下で、研究力強化のための組織改革の直接の対象となります。

また「材料科学」、「スピントロニクス」、「災害科学」、「未来型医療」の4つの重点研究領域を強化し、世界トップレベルの研究拠点を形成することも宣言しました。加齢研と直接関係するのは「未来型医療」の研究領域です。「未来型医療」では、今年度に研究拠点「未来型医療創成センター」を設立し、「世界最高水準の個別化医療・個別化予防研究基盤の構築」、「個別化医療、個別化予防の実践」を主軸に教育・研究を展開することに決定しました。

前者は、東北メディカルメガバンク機構のもつ、世界唯一の出生三世代コホートや地域住民コホートの複合バイオバンクに加えて、80万人の臨床データを保有する大学病院にクリニカルバイオバンクを構築することで、ゲノム・オミックス情報を含めた健常人及び患者の医療

ビッグデータ基盤を整備し、これと人工知能技術を組み合わせて個別化医療に資するエビデンスを創出します。

後者は、大学病院において、臨床研究を通じて、ゲノム情報等に基づく個別化医療を実践し、かつ、個別化医療に必要なゲノム医療を理解し情報解析も行える人材を育成します。また、一般住民に対して疾患に関する遺伝情報を医療の枠組みの中で回付するパイロット研究を実施し、将来の個別化予防に向けた体制を構築します。

現在工程表の作成が終わり、具体的研究計画を練っているところですが、加齢研の基礎研究分野は、加齢関連疾患の予防を可能とする「前医療体制」の構築を担います。加齢研の臨床研究分野は、クリニカルバイオバンクの構築、個別化医療推進教育システムの開発の一翼を担います。

「未来型医療」研究拠点における、近未来の加齢研の研究目標として、加齢に伴う「老化」の表現型の進行程度には大きな個人差をもたらす環境要因・遺伝要因を、モデル生物レベル、ヒトコホートでの検討を行い同定し、現在大きな社会問題になりつつあるアルツハイマー型認知症の発症基盤を中心に解析を進めることとしています。

指定国立大学制度のもと、加齢研が大きく発展できるのか、はたまた組織再編の結果、他部局に飲み込まれて消えてしまうのか。全て、ここからの現役世代の頑張りにかかっています。

最後に、加齢研七十五周年を締めくくる最後の行事として、大学本部からの意見もあり、桜の植樹をすることを計画していることをお伝えします。現在、ソメイヨシノが一本、スマート・エイジング国際共同研究センターの前、北6番丁に面して立っているのはご存知と思います。今年もきれいな花をたくさん咲かせ、私たちや市民の目を楽しませてくれました。抗研、加齢

研の歴史を見つめて続けてきてくれた桜です。この周辺に数本、ソメイヨシノの植樹を考えています。桜は3月ごろ植えるのが良いとの阿部事務長情報ですので、来年の3月、七十六周年に入ってしまったようですが、できれば里見総長にご足労願ひ、総長最後の仕事として、植樹していただければと願っています。桜は通常、苗木を植えてから、3年以上たつと花をつけるとのこと。私が退職する時には、小さな桜並木になってくれていることでしょう。

【分野紹介】

基礎加齢研究分野

〈メンバー構成など〉

基礎加齢研究分野は、平成22年3月1日に、新設の分野として発足しました。現在は、医学系研究科と歯学研究科（口腔腫瘍制御学講座）となっています。現在、教授 堀内久徳、助教 白川龍太郎、産学官連携研究員 山下美保子の3名を中心として運営しています。着任時は全くの空っぽだった研究室が今では場所が足りないくらいに充実しています。大学院生は、6名所属しています。医学系研究科所属の坂爪医師、吉町医師、歯学研究科所属のベトナムからの国費留学生の Trinhさんと中国からの留学生 Gaoさん、同じく中国からの留学生 Zuoさん、そして医学系研究科 MD-Mc-PhD コース1年生（修士）の坂田さんです。MD-Mc-PhD コースは今年度から新設された制度で、医学科4年生から修士-博士課程大学院に入り、最速4年間で博士号を取得し、4年生に復学するという制度で、坂田さんが第一号です。坂田さんは1年生時から私たちの研究室で研究に励んでおり、先日、2017年度の動脈硬化 Update 研究助成（40歳未満）という民間財団助成金で数十の応募の中、最終プレゼンテーションを経て見事最優秀賞を獲得しました。私たちの研究室は学部学生

がよく出入りしていますが、現在は、保健学科4年生の後藤君と医学科3年生の道満君が本格的に研究に取り組んでいます。着任以来教育に積極的に取り組んでいます。平成29年度では、医学部2年生の薬理学3コマ、3年生の生体機能学実習（研究室総出で4日間）、基礎修練学生2名の受け入れ、4年生の老年医学1コマ、6年生の高次修練4名の受け入れ、理学部生物学科の加齢生物学特論3コマ、教養生向け「体と健康」1コマを担当しています。

〈研究内容〉

私たちの研究室では、分子細胞生物学的基礎研究と厚労省難治性疾患政策研究事業としての臨床研究を推進しています。

基礎研究では、いくつかの研究が走っています。私たちは長く低分子量GTP結合蛋白質に関して研究を進めており、特にRasファミリーのRalにフォーカスしています。Ralの抑制性制御因子RalGAPを世界に先駆けて見いだし（Shirakawa et al, JBC, 2009）、その発現低下が膀胱癌悪性化の原因の可能性（Oncogene, 2013）を報告しました。最近では、東北大循環器内科との共同研究で慢性血栓性肺高血圧時の血小板で、Ral等の活性が亢進していることを報告しました（ATVB, 2015）。現在、遺伝子改変マウス等の準備もでき、口腔内癌や膵癌について解析を進めています。Ralが細胞内栄養感知機構の鍵制御因子であるmTORを制御するとの報告を受け、低分子量GTP結合蛋白質を介したmTORメカニズムの解明やリボソーム生合成メカニズムの解明に向け研究を進めています。興味深い知見をいくつか見いだしており、早く論文として発表したいと考えています。さらに、最近、抗老化薬としても期待されている糖尿病治療薬メトホルミンの新規標的蛋白質として、HMGB1を見いだしました（Horicuchi*, Sakata* et al, JBC, 2016: *co-first authors）。HMGB1は傷害細胞の核から放出さ

れ、TLR4等を介して炎症を増幅する、いわゆるalarminの代表的分子です。メトホルミンには抗炎症作用があることが重要視されていますが、私たちの知見によって、メトホルミンの抗炎症作用の一端を説明できるかもしれません。

臨床研究は、The acquired von Willebrand syndrome co-existing with cardiovascular diseases (The AVeC Study) (<http://www2.idac.tohoku.ac.jp/avec/>) を推進しています。体内で過度に強い止血因子であるvon Willebrand因子（VWF）が分解されて出血傾向を来す後天性フォンウィルブランド症候群（AVWS）となります。通常は1m/秒程度の血流が、大動脈弁狭窄症の狭窄弁部では6m/秒を超えるほど速くなることもあり、時に消化管の大出血を来します。しかし、現状では、この病態について我が国の医学教科書にはほとんど記載がなく、また、診療現場での認識も不足しています。そのため、治療方針があらぬ方向に行ってしまうこともあります。例えば高齢の消化管出血で緊急入院になった方がいて、消化管内視鏡で明らかな病変が確認できず、一方で心臓に重症大動脈弁狭窄症がみつければ、たとえ癌が見つかってこの心臓では腹部手術は困難となります。そうすると、退院しても消化管出血を繰り返すこととなります。しかし、この疾患概念を知っていれば、心臓の手術をすれば、元気になり、消化管出血も起こさなくなる、ということで心臓手術が選択されます。これまで、このAVWSの診断法（VWF多量体解析）はほとんど定量的に扱われてきませんでした。そのような中、診断に習熟した、奈良医大と国循のグループとともに、定量法を開発しました。そして全国のいくつかの病院と連携して症例を登録して、AVWSを定量値と出血イベントとを比較検討して、重症度分類・治療ガイドの構築を目的とするThe AVeC Studyを開始しました。詳しくはホームページ (<http://www2.idac.tohoku.ac>

jp/avec/) をご覧いただきました幸いです。

(文責・堀内久徳)

【随 想】

私大から私大へ

東北医科薬科大学医学部免疫学教室

中 村 晃

皆様、こんにちは。約8年前、教授会終了後に盛大にお祝い、またお見送りして頂いた遺伝子導入研究分野に在籍しておりました中村 晃です。遺伝子導入研究分野に在籍する前には旧呼吸器腫瘍研究分野（貫和敏博教授）に所属しておりました。現在も高井俊行教授をはじめ加齢研の先生方には、たいへんお世話になっております。また、昨年度の「随想」に寄稿された岡村大治先生には、私の唐突ともいえる異動のため、研究委員会を突如引き受けて頂くことになり、当時たいへんご迷惑をおかけしました。さて私は、平成28年4月から、性懲りも無く、5年半在籍しておりました金沢医科大学からまた仙台に戻ってきてしまいました。前任地では、セットアップに2年ほどかかり、わずかですが論文が出てきたところでした。なぜ出て行くのか？ 仙台に帰って来るな！ など有難いお言葉を頂き、躊躇しなかったわけではありませんが、この機会を逃すともう帰郷することはないだろうとも思い、薬科大に新設された医学部に異動する機会を頂きました。金沢医科大学の在籍時の話は、加齢研ニュースも含めてこれまで文章を書かせて頂く機会がございましたので、近況も含めて紹介させて頂きたいと思えます。

金沢医科大学は、人口115万と仙台市とほぼ変わらない石川県・能登半島の付け根に位置する、内灘町にある私立の単科医学部です。北陸三県あわせても人口は約300万人で、そこに4つの医学部があることになります。そのため

あってか人口10万人あたりの医師数だけは、3県とも全国平均を上回ります。実際には能登半島から産科医がゼロになったなど、医師不足はわかりません。私が金沢医科大学を訪れたのは、教授選の当日が初めてでした。大学は、内灘砂丘の頂上部分に日本海を背にしてそびえ立っており、金沢駅から浅野川沿いに走るタクシーの窓からすぐに見つけることができました。南側に位置している正面玄関で降りると、白山連峰や北アルプスの山々の絶景を見渡せました。極度に緊張していましたが、感動せずにはいられませんでした。二度と来ることはないだろうなと思いつつ、当時（こんなところに）よく作ったものだと思います。さて先生方のおかげで、幸運にも就職することができました。免疫学の研究室は築50年近くなる建物最上階の10階にあり、私やスタッフの居室からは北アルプスを一望できます。大学のすぐ南側には河北潟とよばれるかつて八郎潟に次いで大きかった潟湖がひろがっており、晴れた日には立山連峰が湖面に映り込みます。私は、一番いい時期の9月に赴任しましたが、金沢は秋が短くすぐに冬がやってきました。日本海から遮るものがなく立つ大学の建物には、猛烈な雨やみぞれが横なぐりにぶつかってきます。また、雷が一日中発生することもありました。いわゆる「ブリ起こし」です。冬型の気圧配置のおかげで、1日の間にいろんな気候を楽しむ事ができます。晴れたと思ったら、突然風が強くなり、辺りが真っ暗・道路が真っ白になる雹（ひょう）にも何度も驚かされました。荒れた日には、10階の居室は、強風で煽られゆらゆら揺れました。研究室の窓のすぐ隣を稲妻が走り、河北潟めがけて雷が落ちていきます。冬の雷は夏と比べてエネルギーが数百倍あるのだそうです。爆音と一体化した、実にダイナミックな光景を楽しむことができました。そんな金沢は、和食・洋食・中華とジャンルを問わず、和菓子はもちろんパンやケーキ

もとても美味しいお店が多いところです。仙台に帰って来て金沢の食のレベルの高さを実感しています。職人さんも多く残っており、前田家が文化を促進したことが大きいのでしょうか。さて赴任当初は、教室の運営や教授会の構成員としてやっていけるか不安でしたが、呼吸器外科・佐久間勉先生の医局が同じ10階にあり、加齢研附属病院で大変お世話になった佐川元保先生（現東北医科薬科大学）や相川広一先生（異動直前には前田寿美子先生も）がおられて、とても安心したのを覚えています。その後も何かとお気遣いを頂きました。講義は、赴任2ヶ月後の11月からの開始でした。引っ越し前はなんとかかなかなあ、と漠然と考えていましたが、いざ着任してみると、準備が間に合うのか、そもそも教育経験が皆無の私が講義をして大丈夫なのか？など実に当たり前の問題に気付かされました。かなりのプレッシャーでしたが、始めてみると、比較的素直な学生さん達が多く、意外とリラックスして授業ができました（良い講義かどうかは別です）。私立らしく、講師以上の教員は6-7名の学生さんを指導学生として受け持ち、生活面も含めて指導をするのですが、当初は、手のかからない学生さんばかりでした。私大にいながら国家試験などあまり関心がありませんでした。ところが、3年日以降から所属委員会が急増し、教務委員会にも所属するようになると、CBT対策や留年生対策などさまざまな教育的課題に関わるようになりました。担当する学生さんも手強くなりました。近年、医学教育学会や全国医学部長病院長会議等で指摘されていますが、低学年の留年率や休学率の増加、さらには学力低下が問題になっています。確かに私が在籍している期間だけでも学力の低下と成績の二極化が進んでいるような印象を受けました。現所属の東北医科薬科大学もその責任の一端を担っているのですが、定員増や少子化の影響もあるのでしょうか。一方で、入試の成

績が必ずしも相関しているわけではありません。大事なのは1年時の成績で、そのまま6年間、さらには国家試験の合格率にまで推移していく印象でした。苦勞をかけられましたが、退職直前には、担当学生さんが進級や国試の報告に来てくれました。いやー成長するもんだなーと感慨深く思いました。但し、当然ながら異動前の1年間は、学生さんはよそよそしくなった印象で、肩身が狭い思いでした。でもなんとんでも金沢医科大学の先生方は、実に暖かく育ててくれたのだと思います。今は前任地の経験が少しは活かされているのかな？と感じています。現職は、初めてお会いする先生が意外と多かったのですが、私より良い先生ばかりでとても心強く思っています。原稿を書いている時点では、まだ基礎の教員は、薬学部がある小松島キャンパスに間借りしている状態ですが、来年2月には東北医科薬科大病院がある福室に引っ越しています。東北医科薬科大病院（旧東北厚生年金病院）は、私の初期研修先（院長は田中元直先生）で、さらに卒後4年目に呼吸器内科の医員として勤務した病院でもあります。久しぶりに行ってみると研修医時代とかわらない施設のままで、こんな感じだった？と時代を感じてしまいました。さらに当時ご指導頂いた先生もおられてたいへん驚きました。なにやら深いご縁を感じております。以前より明らかに顔色が良くなったと言って頂く先生もおられるのですが、正直、前任地より忙しくなっている気がしています。今後とも加齢研の先生方のお力添えをお借りして、なんとかやっていければなと思っています。

【研究員会便り】

研究員会委員長 林 陽 平

昨年1月から委員長を務めております、医用細胞資源センターの林陽平です。研究員会は、

加齢研の若手研究者を主体として、人的交流を促し、研究を活発化する環境づくりを行っています。

今年度も加齢研リトリートは継続となり、新たに加齢研内の若手同士の共同研究に助成がつくようになります。私の任期はこの12月までとなり、その後は新たな運営体制となりますが、加齢研内外の交流、共同研究を活性化する試みは継続されていくことと思います。皆様の引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

研究員会活動内容（H29.6～H29.11まで）

<第148回集談会（H29.7.14）での研究員会第31回発表コンテスト>

今回から投票方法が変わりました。

平成29年7月14日（金）午後1時から開催されました第148回集談会での第31回研究員会発表コンテストの受賞者は、第1位は望月研太郎先生（医用細胞資源センター）、第2位は福永久典先生（機能画像医学研究分野）に決まりました。

表彰式は平成29年7月14日（金）午後5時30分からの園遊会で行なわれました。

<第4回加齢研リトリート>

第4回となる今回は、第1期3年間に行なったリトリートをさらに発展させ、分野間の垣根を取り除いて、加齢医学研究所をより活性化できるリトリートを目標にしました。

また、本年度はリトリートと連携した若手共同研究促進助成金が立ち上がりました。これは加齢研内の若手が主体的に行う分野横断型共同研究に研究費が支給されるという画期的な取り組みです。これまでのリトリートで培った共同研究及び、これから始める研究も助成対象です。

日 程：2017年10月27日（金）、28日（土）

開催場所：山形 蔵王温泉
蔵王センタープラザ
〒990-2301

山形県山形市蔵王温泉 903-2

参加費：助教・ポスドク、8,250円（宿泊費）
+ 350円（懇親会費）
学生、8,250円（宿泊費）
※宿泊費は規定に基づいて、後日清算振込されました。

発表について：以下の枠による発表・ディスカッションを行いました。

- ① 若手共同研究促進助成金の応募代表者によるプレゼンテーション
本リトリート内において、若手研究促進助成金の第一次審査が行われました。
- ② 口頭発表（一般）
分野間の理解を深め、また共同研究に発展しうるシーズを開拓するため、参加者による自由な口頭発表が行われました。
- ③ ポスター発表（一般）

第4回 加齢医学研究所リトリート実行委員：
応用脳科学研究分野 領家 梨恵（実行委員長）
腫瘍循環研究分野 鈴木 康弘
神経機能情報研究分野 久保 純

<平成29年度研究員会委員長副委員長選挙>

告 示：平成29年11月2日（木）
一次選挙：平成29年11月16日（木）
二次選挙：平成29年11月30日（木）
委員長、副委員長の任期：

平成30年1月1日～平成31年12月31日

<加齢研研究員会スポーツ大会>

学生による実行委員会運営を行います。
日 時：平成29年11月1日（水）
17:30～20:00

個人種目：卓球, バドミントン

平成 29 年 11 月 2 日 (木)

17:30 ~ 20:00

団体種目：バレーボール, バスケットボール

場 所：星陵体育館

<加齢研研究会セミナー>

日 時：平成 29 年 6 月 13 日 (火)

13 時~14 時 30 分

場 所：加齢研実験研究棟 7 階

セミナー室 1

演 題：Light and Dark Sides of Polarity Proteins in Blood Vessel

講 師：中山 雅敬

所 属：マックスプランク心肺研究所,
ドイツ

担 当：小林 美穂

(腫瘍循環研究分野・内線：8532)

日 時：平成 29 年 7 月 27 日 (木)

17 時 30 分~

場 所：スマートエイジング研究棟

4 階セミナー室

演 題：酸化ストレスを抑制できたら何が起
こるか？ 基礎と臨床データ

講 師：犬房 春彦

所 属：岐阜大学生命科学総合研究支援セン
ター抗酸化研究部門

担 当：武藤 達士 (機能画像医学研究分野・
内線 8559)

<平成 29 年度加齢研交流セミナー>

旧名称：加齢研生化学セミナー

加齢研内の研究室間交流セミナーです。年 4
回 (6 月, 9 月, 11 月, 2 月頃), 毎回 2 研究室
ごと, 30 分の持ち時間で発表を行っています。

第 1 回加齢研交流セミナー

担 当：分子腫瘍学研究分野

人間脳科学研究分野

日 時：平成 29 年 6 月 26 日 (月)

16 時~17 時 10 分

場 所：加齢研実験研究棟 7F セミナー室 1

1. 見過ごされてきた僅かな異常ががんでの異
数性細胞の蓄積につながる

講 師：分子腫瘍学研究分野 國安 絹枝先生

2. 計算論的社会脳科学への招待：社会的意
決定を支える神経機構の解明へ向けて

講 師：人間脳科学研究分野 鈴木 真介先生

連絡先：加齢医学研究所・研究会事務局 齋
藤 内線：8576

第 2 回加齢研交流セミナー

担 当：神経機能情報研究分野

腫瘍生物学分野

日 時：平成 29 年 11 月 6 日 (月)

16 時~17 時 10 分

場 所：加齢研実験研究棟 7F セミナー室 1

1. メカノバイオロジーから frailty にどう立ち
向かうかを考える — Exercise pill は可能
か? —

講 師：神経機能情報研究分野

小椋 利彦先生

2. 新規 BRCA1 結合因子 BIP2 による組織特異
的な中心体複製制御機構

講 師：腫瘍生物学分野 吉野 優樹先生

連絡先：加齢医学研究所・研究会事務局
齋藤 内線：8576

<今後の予定>

1. 第 149 回集談会 (H30.1.26) での研究会
第 32 回発表コンテスト

2. 研究会主催新年会

日 時：平成 30 年 1 月 26 日 (金)

第 149 回集談会終了後

昨年度と同様にポットラック形式で行なう予

定です。

3. 第3回加齢研交流セミナー

担当：遺伝子導入研究分野

基礎加齢研究分野

日時：平成29年12月21日（木）

16時～17時10分

場所：加齢研実験研究棟7Fセミナー室1

4. 第4回加齢研交流セミナー

日程未定

総会, 懇親会（園遊会）

日時：平成29年7月14日（金）

総会 集談会終了後

懇親会（園遊会） 加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟1階ホール

午後5時30分から

4. 加齢研セミナー（平成29年6月16日～平成29年11月15日の間に開催されました。）

平成29年7月26日（水）16:00～

加齢研実験研究棟7階 セミナー室1

講師：野澤佳世

所属：マックス・プランク研究所

演題：メダイエーターの結晶構造から明らかになってきた転写開始のメカニズム

担当：神経機能情報研究分野 小椋 利彦

平成29年9月4日（月）17:00～

加齢研プロジェクト棟1階中会議室

講師：新田 剛

所属：東京大学大学院医学系研究科免疫学講座

演題：胸腺におけるT細胞レパトア制御

担当：生体防御学分野 小笠原康悦

平成29年9月13日（水）17:00～

加齢研実験研究棟7階 セミナー室1

講師：諸橋 憲一郎

所属：九州大学大学院 医学研究院/システム生命科学府

演題：ステロイド産生細胞における代謝とAd4BP

担当：遺伝子発現制御分野 本橋ほづみ

5. 加齢研ニュース発行

67号 平成29年6月

68号 平成29年12月

今後の予定

1. 第149回集談会

日時：平成30年1月26日（金）午後1時

【研究会同窓会広報】

庶務幹事 高井俊行

庶務報告

1. 研究会同窓会会員の確認（平成29年11月現在）

会員数 1,963名

（所内在籍者215名, 所外774名（過去5年間の会費未納者は, 257名で加齢研ニュースは送付しておりません。）海外91名, 退会者439名, 物故者272名, 住所不明172名）

賛助会員 26施設

購読会員 17件

物故会員（平成29年6月～平成29年11月までの間に事務局に連絡がありました。）

宇野 正恒先生 平成28年9月1日

抗研細胞生物

福田 實先生 平成29年4月26日

抗研微生物

三橋 啓司先生 平成29年7月25日

抗研外科

2. 第148回集談会

日時：平成29年7月14日（金）午後1時から

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟 国際会議室

一般口演11題

3. 平成29年度加齢医学研究所研究会同窓会

から

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジ
ング研究棟 国際会議室

第 25 回加齢医学研究所研究奨励賞，一般
口演

2. 第 150 回集談会

日時：平成 30 年 7 月 20 日（金）午後 1 時
から

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジ
ング研究棟 国際会議室

一般口演

3. 平成 30 年度加齢医学研究所研究会同窓会
総会，懇親会（園遊会）

日時：平成 30 年 7 月 20 日（金）

総会 集談会終了後

懇親会（園遊会） 加齢医学研究所 スマ
ート・エイジング研究棟 1 階ホール

午後 5 時 30 分から

4. 加齢研セミナー

平成 29 年 12 月 4 日（月）17:00～

医学部第 2 講義室（1 号館 1 階）

講師：伊藤 貴浩

所属：ジョージア大学生化学分子生物学部

演題：Don't misbehave : reprogramming cell
fates in the regulation of stem cells
and cancer

担当：遺伝子発現制御分野 本橋ほづみ

5. 加齢研ニュース発行

69 号 平成 30 年 6 月

70 号 平成 30 年 12 月

[編集後記]

どこでもネットに繋がるようになって，我々は本当に幸せになったのか。感じ・考え・創り出すのが仕事のはずの研究者が，その時間を研究室ではもちろん，学会出張中やその移動時間からさえも奪われる今日。そう嘆きつつもスマホのテザリング（無線 LAN 基地局として使う機能）が調子悪くなって，一生懸命直そうとしてしまう自分が悲しい。そんな時代に，この「加齢研ニュース」というアナログなメディアに，何か救いを感じます。

（杉浦）

